

<ものもらい>

今回はものもらいについてご紹介します。これは瞼にある脂や汗を出す腺に細菌が感染して起こる急性化膿性炎症のことです。脂腺にはまつ毛の付け根にある皮脂腺と瞼の深部にある脂腺（マイボーム腺）があります。地域によっては他にも色々な言い方があるようですが、正式には「麦粒腫」と言います。細菌感染が主な原因で、原因菌は黄色ブドウ球菌や表皮ブドウ球菌が多くを占めます。

<症状>

瞼の一部が赤く腫れて痛みがあり、初期には赤みが目立たない場合もありますが、指で押さえると特に痛む場所があります。瞼全体が腫れ、目やにも出ます。数日で皮下に肉眼で見える膿が現れ、放置すると皮膚が破れて膿が出ます。これを外麦粒腫と言います。外麦粒腫に対して瞼の内側（裏側）に膿が溜まり、破れる時も裏側が破れて膿が出るものを内麦粒腫と言います。内麦粒腫の方が痛みなどの症状が強い傾向にあります。外麦粒腫でも内麦粒腫でも、膿が出るとそのまま治ることが多いですが、膿が残ると長引くこともあるそうです。

ものもらいは他人にうつる病気ではありませんが、汚れた手で患部を触ると治りが遅くなったり、完治しても再発する場合がありますので不必要に触らない事が大切です。治療としては主に抗菌点眼薬が用いられ、症状が重い場合は抗菌内服薬を用いることや小さな切開を行い、膿を排出させることがあります。瞼を清潔に保ち、あまり触らないようにして早めにお近くの医療機関を受診することをお勧めします。